

## VIII 連携への提案

全国失語症会話パートナーのメーリングリスト

# 全国会話PAML できました！

全国の会話パートナーと  
メールでつながります



1つのメールアドレスで、登録している人みんなにメールが届きます。

こんなメールが届きます

- ① 定期便（年4回）  
各団体の活動状況の報告など
- ② テーマ季節便（年4回）：  
皆さんに投稿していただくテーマ
- ③ ①、②へのコメント、お返事その他  
会話パートナーに関することなら  
何でも！

こんな人が参加しています

- ♪ 会話パートナーのついでで申し込んだ人
- ♪ 和音のスタッフ
- ♪ 和音の会話パートナーMLの参加者
- ♪ 上記の方からのご紹介

[waon.kaiwapa@gmail.com](mailto:waon.kaiwapa@gmail.com) まで  
お問い合わせください！

皆さんの  
ご参加、投稿  
お待ちしております！

ML管理人一同

## IX 提言

**全国の地方自治体や失語症関連団体は連携して、失語症意思疎通支援者としての失語症会話パートナーの養成を早急に実施することを提言する。**

つどい開催に先立ち和音が実施した失語症会話パートナー養成講座修了者アンケートの結果(資料 2 参照)からは、多くの会話パートナーが多様な場所で活躍し、この活動の意義を見いだしていることがわかった。またもっと自分達の資質の向上を図りたいという意識の高さが感じられた。一方、連携に関して、他の地域での活動を知りたい、横のつながりや全国のネットワークがほしいというような意見があった。

これに対し、つどい参加者による終了後アンケート(VII)では、各地の活動を知ることができ有意義であったという意見が多かった。これは、今回のつどいの大きな成果の一つだと言える。さらにつどいの成果を持続させて会話パートナーの資質の向上を図り、失語症の意思疎通支援者として全国の会話パートナーが連携するためのメーリングリストの立ち上げを提案した。全国の会話パートナーが情報を共有することで、新たな課題の発見や活動の展開が期待される。

つどい終了後、参加した全国の団体のいくつかに対し、言語聴覚士の団体などから会話パートナーを養成したいという問い合わせがあったという情報が和音に寄せられた。このような各地の情報が集約できるようになったことは、つどいのもう一つの成果の表れである。同時に、一般の人だけでなく、養成する側の専門職にもその必要性の認識が広まっていることが実感される。

失語症は、意思の疎通が困難な障害であるということさえ一般には十分に認識されていない。その意思の疎通を支援する「失語症会話パートナー」という人たちが全国で活動している実態を、失語症当事者や医療福祉の関係者だけでなく、広く世の中に知ってもらう必要がある。会話や意思の疎通、それ自体は目に見えるものではなく、その支援の方法も一見して容易にわかるものではない。「失語症会話パートナー」は失語症の人の意思疎通を支援し、コミュニケーションの橋渡しをする人材として、具体的で目に見えやすい方策の一つである。コミュニケーション支援のいわば象徴的な存在であり、その存在や必要性を知ってもらうことが、失語症およびコミュニケーション支援の理解につながる。

すべての国民が同等に尊重され、必要な支援を受け、社会参加と選択の機会を確保されるような共生社会の実現という障害者総合支援法の基本理念に照らして考えると、失語症の人たちは失語症会話パートナーのような人材の支援を適切に受け、どのような社会資源をも活用でき、

さまざまな活動に参加することができるようになることが理想である。その実現への第一歩として、意思の疎通を支援する人材の育成は喫緊の課題である。各自治体や言語聴覚士の団体などが連携し、積極的に養成を開始することを提言したい。NPO 法人和音もこれまでに蓄積した養成の方法や活動の仕組みをブラッシュアップし、さらに普及活動に邁進したいと考えている。

